



Q 突然ですが、もし皆さんが次のような状況に直面したとき、どうしますか？

例1

転倒したことがきっかけで
閉じこもりがちに…



70歳、ひとり暮らしの男性

10年前からひとり暮らし
自分の時間を過ごせる
のは楽しいけれど…

ひとり旅
ひとり町プラ

ある日、外出時に
階段から転倒



腰も足も痛いし
しばらく家で
過ごそう



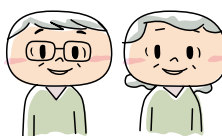
出かけるのがめんどくだな
体力も落ちてきて動くのが
きつくなってきたな
食事は出前もあるけど
誰かと話したいな…

簡単な運動や
人と話ができるような
集まりがないかな…

1人は少し
さみしいな…

例2

高齢者の夫婦
二人暮らしで…



夫婦ともに75歳
子どもや孫は県外在住

妻が50代でリウマチ発症
最近悪化してきて…
歩行も難しくなってきた

よし!僕が家事を頑張ろう
介護も大丈夫!!



今までどうにか
過ごしてきたが

最近、僕自身も腰痛が悪化して
動けない。全てはできないな…



できない部分を
手伝ってもらえない
かな…

例1の男性は、転倒を機に日常生活での活動に消極的になってしまい、気力や体力が低下しているような状態で、このままの生活を続けていくと住み慣れた家で生活することも難しくなるかもしれません。

例2では、最初は夫が「妻の分も頑張ろう!」と意気込んでやってきたものの、すべてを一人で抱え込んでしまい負担が大きくなっている状況です。また、体の調子も良くなく、夫自身もできない部分が出てきています。

対応としては、適切な医療を受けつつ介護予防教室や、地域で行われている住民主体の集い

の場へ参加すること、または介護保険サービスなどを利用するなどの方法が考えられるかと思っています。しかし、これをスムーズに繋げていくためには医療と介護、生活支援・介護予防の連携が不可欠で、長与町では医療と介護(介護予防)の連携推進に取り組んでいます。

そして、高齢者の日常生活での困りごとや、いざという時の最初の相談窓口となっているのが役場介護保険課内にある「長与町地域包括支援センター」です。ぜひお気軽にご相談ください。

今回は、知っておきたい「在宅医療介護連携について②」です。お楽しみに!